

2021年8月の行事予定表

1	日	礼拝式、聖餐式、教会役員会	16	月	
2	月		17	火	
3	火		18	水	
4	水	祈禱会	19	木	祈禱会
5	木		20	金	
6	金		21	土	
7	土		22	日	礼拝式
8	日	礼拝式	23	月	
9	月		24	火	
10	火		25	水	
11	水	祈禱会	26	木	祈禱会
12	木		27	金	
13	金		28	土	
14	土		29	日	礼拝式
15	日	礼拝式	30	月	
			31	火	

8月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

岡山では緊急事態宣言も解除されて通常礼拝が再開され、本当にありがたい日曜となりました。

今号は通常礼拝再開レポート、永松淑子姉のお証し、K.M.姉の個展の様子、そして「聖書における水」の紹介と盛り沢山の内容でした。

再び新型コロナの感染拡大の兆し。暑さ対策も含め、しっかり備えてこの夏を乗り切りましょう！

教会月報

2021年8月

No.363

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

終わりの日の平和

「主は国々の間を裁き、多くの民のために判決を下される。彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦いを学ぶことはない。」
イザヤ2章4節

毎年、8月15日は第二次世界大戦が終結し、日本国は初めての敗戦を経験した敗戦記念日でもあります。それも、無条件降伏という状況であったのです。戦後、東京裁判が戦勝国のもとで開かれました。当然、国の指導者たちは厳罰に処せられたのですが、A級戦犯者以外のB・C級戦犯者たち(上官の命令による戦争犯罪者たちを指すことが多い)は、有名な映画「私は貝になりたい」という映像等を通してご存じであろうと思いますが、はなはだ理不尽なことであったようです。

聖書は平和を志向します。しかし、人間は覇権の欲望に駆られ、ついには最終的に自分ファーストとなり裸の王様へと突き進む傾向が見られます。

米国にある国連の施設に刻まれている言葉が、冒頭の言葉です。しかし、現実の世界を見渡す時、はなはだ現状とは異なる事実には驚きを隠せません。

聖書の神は究極的に、平和な世界を待ち望みます。それを造り上げるのは人間であります。私たち一人ひとりの心の中に、平和の心が宿っているならば、神の平和が訪れるでありましょう。しかし、他者を憎み、他者を傷つけ乗り越えることによって自己実現を図るならば、結局、最終的に自己中心の罪に帰ってくるのではないのでしょうか？

牧師 永松 清

！！感謝！！ 通常礼拝再開！



7月11日(日)より通常礼拝が再開されました。まだ、礼拝式順序は短縮版で、永松先生が司会も兼務される形式は同じです。YouTube 配信も従来通り継続しています。4月18日(日)に「第一回教会交流会」が行われた翌週からYouTubeに移行して以来、12週ぶりの通常礼拝でしたので16名の出席が賑やかでした。

永松先生より「生命の回復」(ヨハネ福音書 4:43~54)のメッセージが語られました。役人の瀕死の息子が癒されたのは役人の「イエス様の言葉を信じた信仰」によった、と学びました。私たちの生命は、神の御手に握りしめられていることを覚えることができました。

礼拝後には再開記念写真を、ワン、ツー、スリーでマスクを瞬間的に外して写しました

特集 聖書における雨と水 その2



真夏の時季に、雨と水がどれほど貴重であったかを知ることで、わたしたちの聖書の理解に広がり、と深さが加わることを祈念した特集第二回です。旧約聖書の最初のページ「創世記」から新約聖書最後のページ「ヨハネ黙示録」まで、水に関しては何と670か所、雨に関しては97か所の記載がありました。その中からほんのごく一部をご紹介します。

水について。旧約聖書

・創世記 1:6,7

『神は言われた。水の中に大空あれ。水と水を分けよ。神は大空を造り、大空の下と大空の上に水を分けさせられた。そのようになった。神は大空を天と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第二の日である。』

・箴言 29:19 『水が顔を映すように、心は人を映す。』

・イザヤ書 12:3 『あなたたちは喜びのうちに 救いの泉から水を汲む。』

新約聖書

・ヨハネ福音書 4:13,14 『イエスは答えて言われた。この水を飲む者はだれでもまた渇く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。』

・ヨハネ黙示録 21:6 『わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。渇いている者には、命の泉から価なしに飲ませよう。』

“異形犬たちが遊ぶ「みんな個性派」の企画展”

7.17(土)~7.25(日)

K.M.姉

京都から岡山に戻ってから3年経ちました。岡山で展示活動したいと思いながら中学校の美術の先生の名前を検索してみました。ギャラリー108 というところで先生の作品展示記録が載っているのを見つけました。早速、ギャラリー108に美術の先生の教え子とのメールで問い合わせると、なんとギャラリーのオーナーが美術の先生だよという返事が来たのです！その後、企画展のお誘いの声がかかり、初めて岡山市内で個展ができることになり大変喜びました。これは神様が岡山市内で展示活動ができる場を用意していただいたことでした！

(2010年~2014年に制作した50点を展示) ※下は会場の様子とM姉妹



8月証し「お祈りに感謝して」 永松淑子

8月は広島に原爆が投下され、終戦記念日を迎えます。コロナウイルスの脅威にもさらされ、自然災害も多く報道されるニュースに目をおおいたくなります。

3・11の東北大震災で津波に流されていく人々の映像は今でも忘れることができず祈っています。

教会での主日礼拝式は会堂とリモートを通じ、おかれた場所で守り、自由に教会員に会えないで忍耐する日常が続いています。コロナ禍、どうして過ごされていますか？と問われますが、わたしのルーティンは朝一番に窓を開け庭に出て植物を愛でながら祈り一日をスタートします。祈りは目に見えないものですが、祈られている幸い、祈る幸いを感謝しています。

世界では思想や信仰の自由さえ奪われ、命や魂の尊厳が失われ心の痛むことのなんと多いことか、神の存在を否定したくなるような絶望を感じる人々もあるでしょう。しかし、そのような中でも弱い人たちを助け、愛する人々の幸いを祈り、寄り添っている人々に神様を見る思いです。

私のキリスト者としての生き方を問われているように思います。

教会は皆様の祈りやお支えにより保たれています。コロナの収束を願い、私たちの居場所は教会にあると実感できる日が訪れますよう祈っています。

「光は暗闇の中で輝いている。」(ヨハネ福音書 1章 5節)

コロナ禍で主が示してくださった御言葉は真実です。

